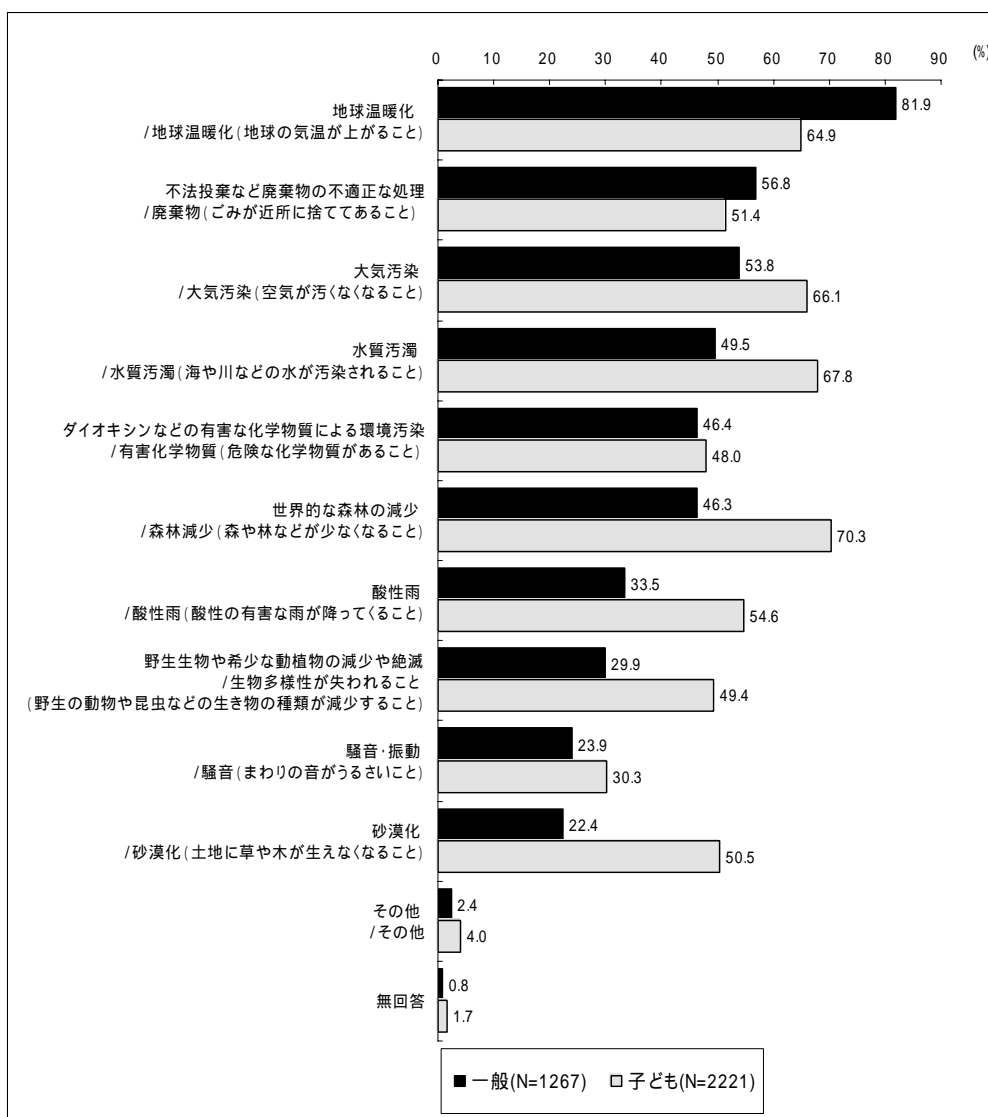


環境基本計画点検のための一般個人調査・子ども調査の比較報告書

1. 関心のある環境問題

関心のある環境問題の上位3位は、一般では、「地球温暖化」(82%)、「不法投棄など廃棄物の不適切な処理」(57%)、「大気汚染」(54%)であるが、子どもでは、「森林減少」(70%)、水質汚濁(68%)、大気汚染(66%)である。一般が、「酸性雨」や「野生生物や希少な動植物の減少や絶滅」「砂漠化」への関心が4割以下と低いのに比べて、子どもは5割前後と高くなっている。全般的に、子どもの方が環境問題への関心の幅が広い。

図表1 関心のある環境問題（一般：問2、複数回答、子ども：問2、複数回答）
 （図中の項目名は、「一般調査の項目名 / 子ども調査の項目名」の形式で示した）

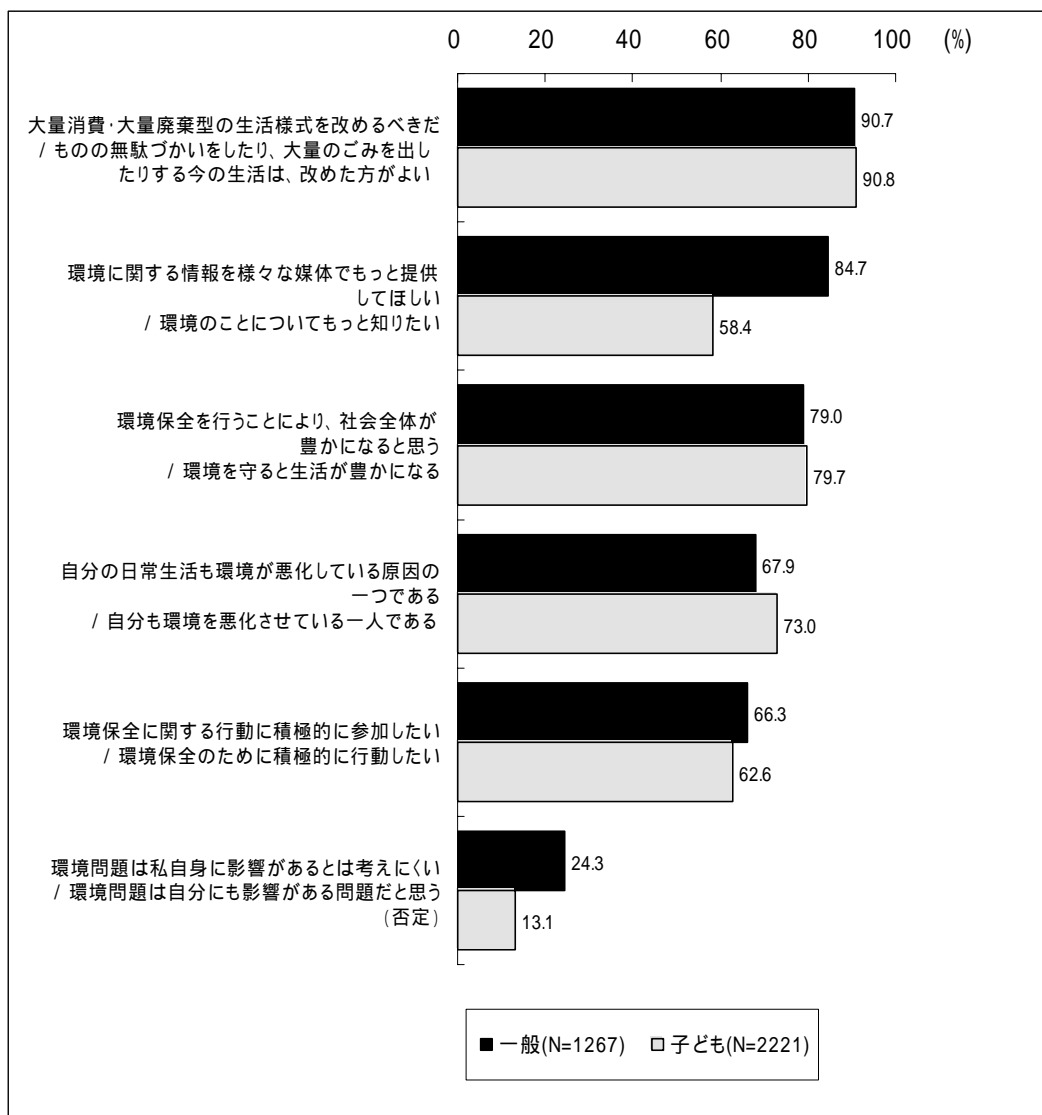


2. 環境への考え方

一般も子どもも、「大量消費・大量廃棄型の生活様式を改めるべきだ」を約9割が支持しており、今日のライフスタイルを反省する意識が見受けられる。また、一般も子どもも環境問題を自分に影響がないと考える割合は少ない（一般 24%、子ども 13%）。環境情報へのニーズや知識欲求を持つ人の割合が、子ども(58%)を一般（85%）が大きく上回る他は、一般も子どもも考え方に大きな違いがないことが見受けられる。

図表2 環境についての考え方（一般：問3-1、子ども：問3、双方とも4段階尺度で質問したもので、一般は「大変そう思う」「ややそう思う」の合計、子どもは「とてもそう思う」「少しそう思う」の合計の%）

（図中の項目名は、「一般調査の項目名 / 子ども調査の項目名」の形式で示した）

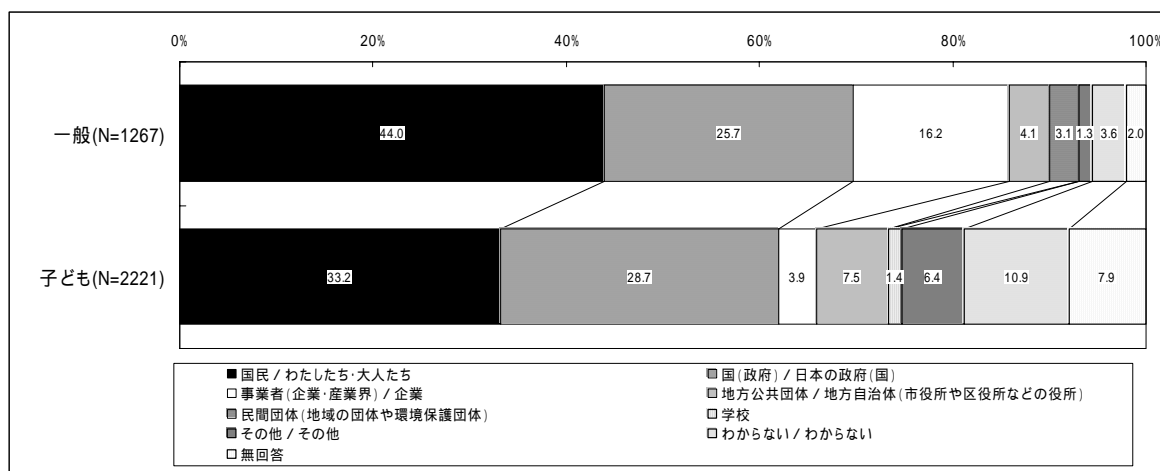


3. 環境保全の上で重要な役割を担っているもの

一般も子どもも「国民」や「国」が環境保全に重要な役割を担うと考えているが、一般は子どもより、「事業者」(企業)が重要な役割を担うと考える傾向がある。また、子どもは一般より「その他」「わからない」「無回答」が多い。

図表3 環境保全に重要な役割を担っているもの(一般:問3-2、子ども:問8、双方とも択一式質問)

(図中の項目名は、「一般調査の項目名/子ども調査の項目名」の形式で示した)



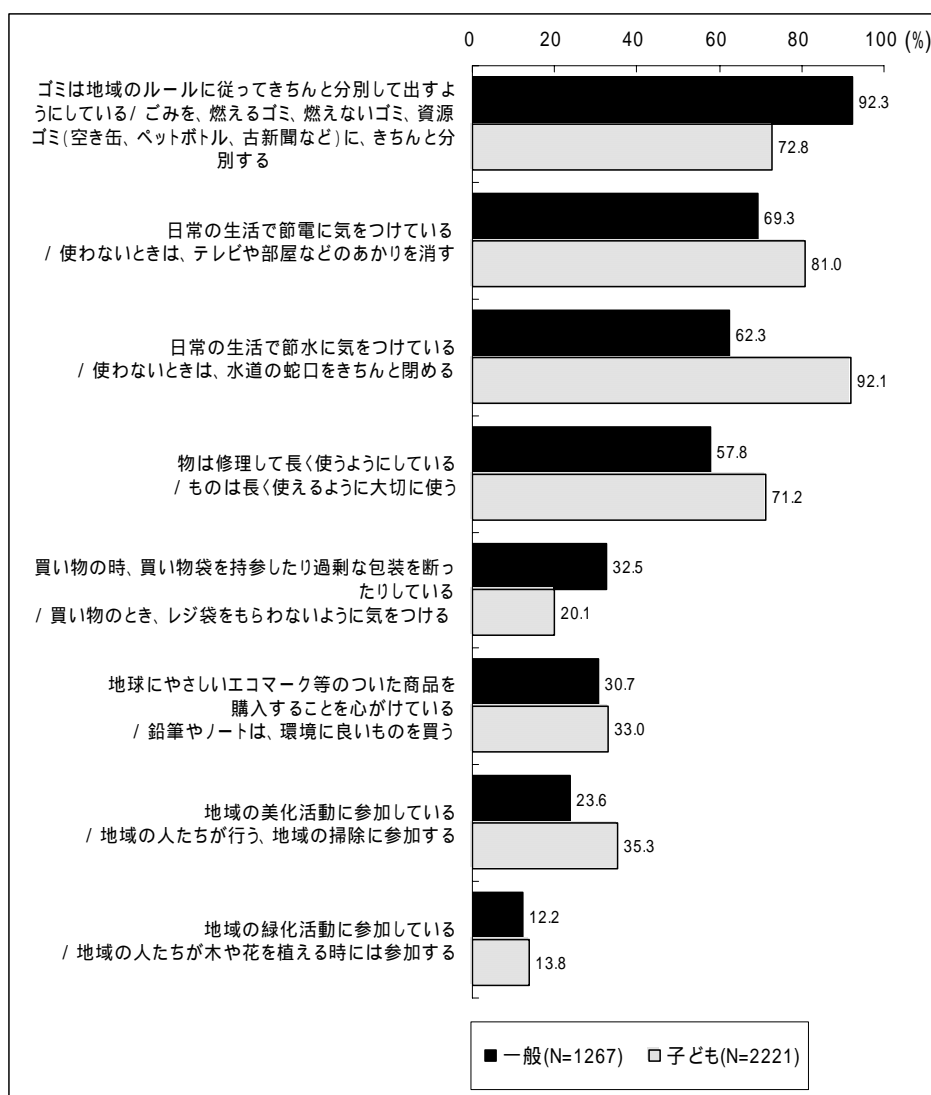
4. 環境保全行動の実施状況と今後の意向

(1) 実施状況

一般は、「ゴミの分別」「節電」「節水」、子どもは「節水」「節電」「ゴミの分別」が上位の行動となっている。「ゴミの分別」「節電」「節水」の実行率は一般も子どもも6割を超えており、これらの行動はわれわれの生活の中に根づいているといえる。一般が子どもより実行率が高いのは、「ゴミの分別」「買い物袋持参」だけで、他は子どもの方が実行率が高い。

図表4 環境保全行動の実施状況（一般：問4-1の5段階尺度の「いつも行っている」「だいたい行っている」の計、子ども：問4の3段階尺度の「いつも行っている」「だいたい行っている」の計）

（図中の項目名は、「一般調査の項目名 / 子ども調査の項目名」の形式で示した）

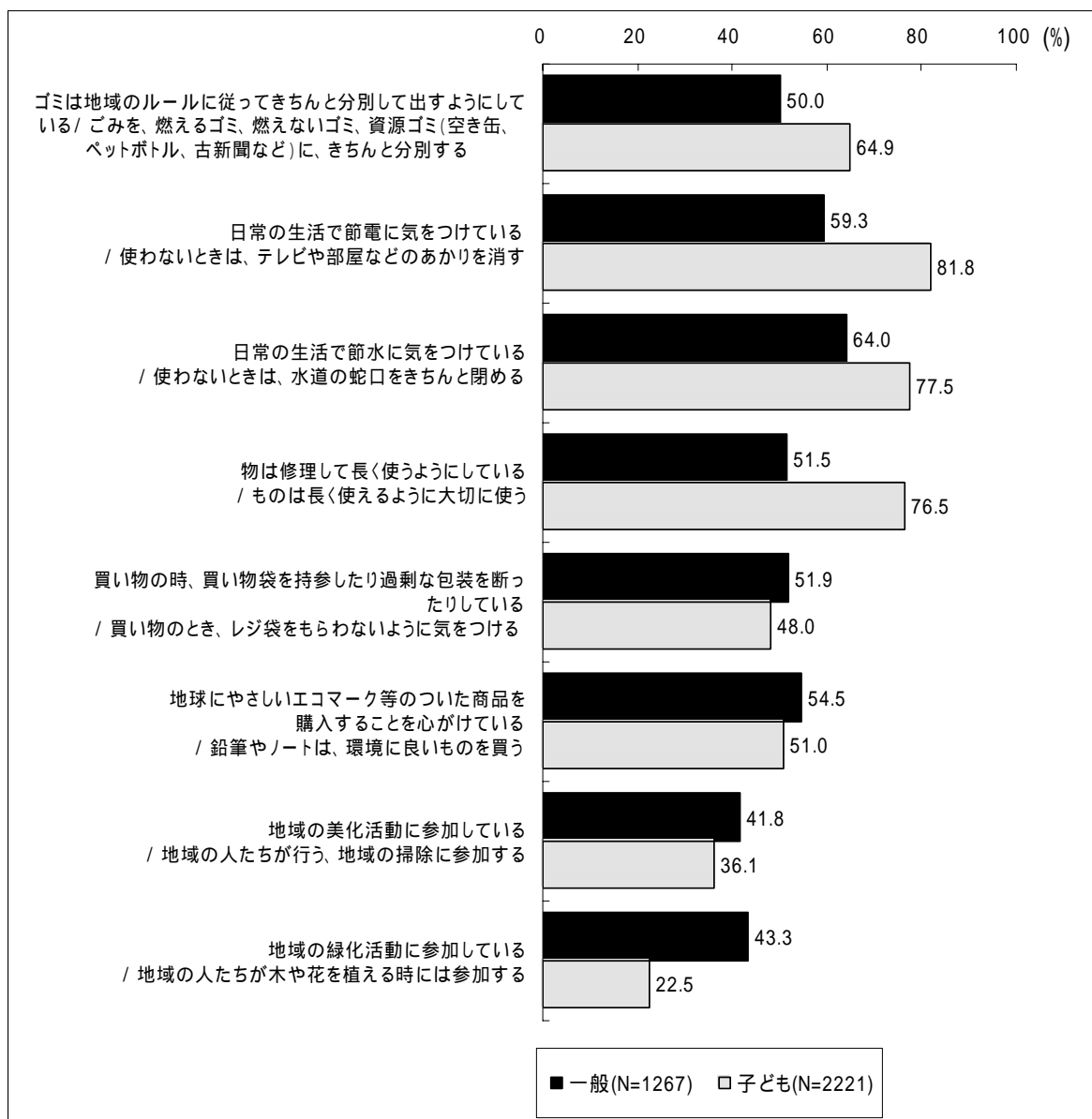


(2) 今後の実施意向

環境保全行動ごとに、一般は「あまり行っていない」「全く行っていない」と回答した人、子どもは「行っていない」と回答した人を対象に、今後の実施意向を聞いた結果、一般も子どもも5割程度以上が実施意向を示しているが、「ゴミの分別」「節電」「節水」「ものを長く使う」などの行動については、子どもの意向率は一般を大幅に上回っている。地域活動関連の行動は、一般も子どもも意向率が低く、特に子どもの地域の緑化活動で顕著である。

図表5 環境保全行動の今後の実施意向（一般：問4-2、子ども：問7）

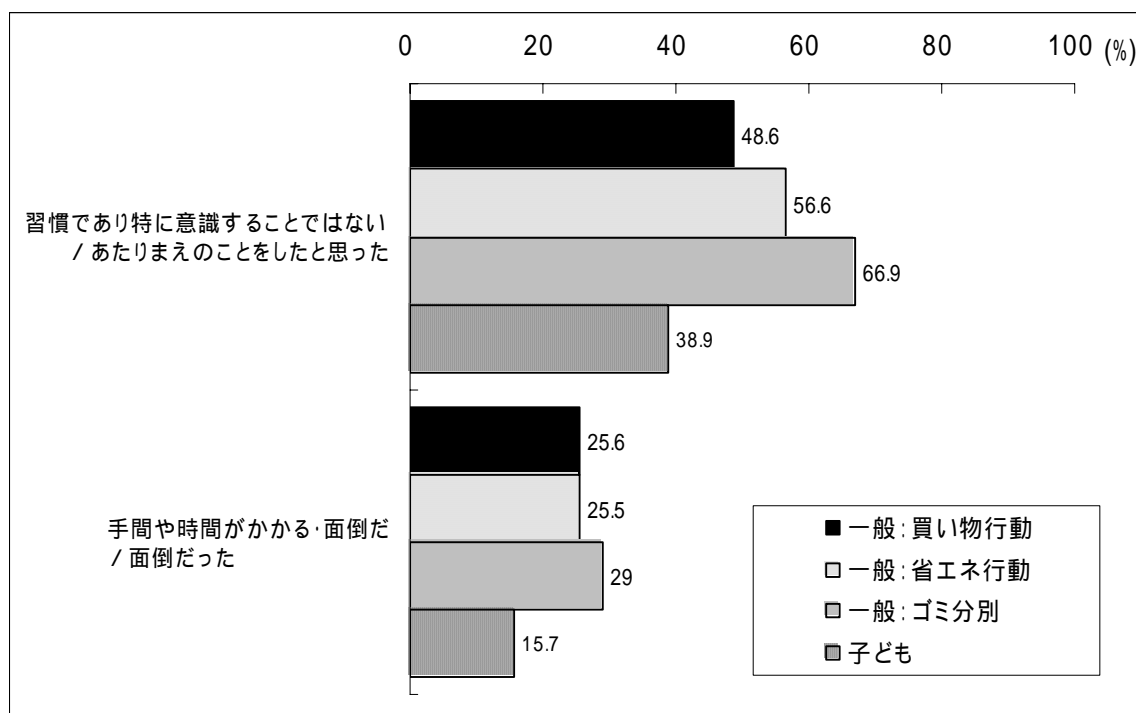
（図中の項目名は、「一般調査の項目名 / 子ども調査の項目名」の形式で示した）



5. 環境保全行動の実感

一般と子どもに聞いた環境保全行動の実感の中で、比較可能なものを比較してみると、一般は、「習慣であり特に意識することではない」という理由で買い物行動、省エネ行動、ゴミ分別の3種の行動をする人が5割程度以上となっているが、子どもでは環境保全行動が「あたりまえのこと」という実感は4割程度である。「面倒だ」という実感は、子どもより一般の方に強い。

図表6 環境保全行動の理由と実感（一般：問5-3の(5)、(6)で4段階尺度で聞いた「そう思う」「ややそう思う」の合計%、子ども：問6の複数回答方式での該当%）
（図中の項目名は、「一般調査の項目名/子ども調査の項目名」の形式で示した）

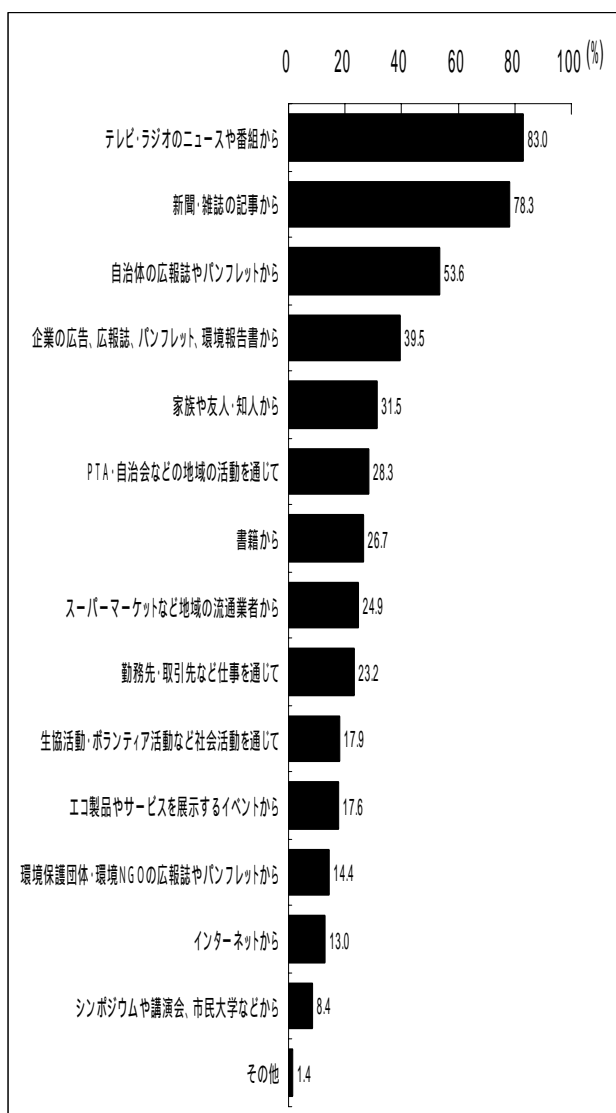


6. 情報入手経路

環境情報の入手経路（媒体）は一般子どもも「テレビ・ラジオ」が最大のものとなっている。それに次ぐ媒体は、一般の場合は「新聞・雑誌」、子どもの場合は「学校の授業や先生」である。

一般の場合は、「自治体の広報誌やパンフレット」が上位にあり、インターネットは下位にあるが、子どもの場合はその逆で、インターネットが上位、市役所・区役所が作った本が下位になっている。

図表7 一般の環境情報入手経路（問8-1で4段階尺度で聞いた「良く入手する」「ときどき入手する」の計%）



図表8 子どもの環境情報入手経路（問9、複数回答方式での該当%）

